

## 若き人材

### 坂本雅雄氏を惜しむ

政界方面に異常な實力を發揮した仙石貢博士が先年亡くなられてから後も、數人の老先輩が逝かれて、明治以前の老技術家は今や指を屈するほどになつた。雑誌工學に晩年まで筆を執られた石橋鉅彦博士の如きは老先輩の一人としてまことに尊敬すべき人であつた。私は遂に一度も御目に懸つた事はない、編輯の要件で手紙を往復したのみで印象は薄いが、兎に角あの老齢を以てして能く筆を執られた熱心には敬服してをつた。

今は老先輩として健康を持し、斯界の爲めに盡力してゐられる人に野村龍太郎博士と古川阪次郎博士の二人がある。野村博士は今春東京地下鐵の社長を退かれたが、まだ健康で湘南電鐵や南武鐵道などの社長を兼ねてゐられる、後進の事業や人事の面倒も見てゐられる様である。古川博士も仲々の元氣で鐵道會議などでは有力な發言者である、また先般は鐵道協會長に選任されて老後の一役を果す様な意氣込らしく見える。

此の外に明治前の老技術家として我工學界の元老たる古市公威男爵は今年八十歳の壽を祝賀される事になつてゐる。古市男は土木出身であつても我邦工學界の唯一の長老としての存在である事は世に周知の事である。

斯る大先輩が何れも我が土木工學の出身であるが、遠からず此の様な大先輩の手引から離れねばならぬ我土木技術界は、又一段の淋しさを増すのではないだらうか。

たとへ研究方面に於ては變らないとしても、土木の技術的社會的地位が、他の専門實務界より壓迫をうけて來るのではないか。現在に於てすら我土木技術界は他の専門に比し、甚しく不振の狀態にある。我等は今日の土木技術界から若き人材の出現を待望して止

まないものである。

斯る際に若き人材の一人坂本雅雄氏を失ふた事は斯界の爲めの大なる不幸である。

坂本氏は鐵道省東京第一改良事務所の青年技師として、技術に熱心なる態度は各方面から注目され、而して將來を嘱目されてゐた人材であつた。昨年竣工したお茶の水・兩國間の高架線工事を擔當して氏は特にコンクリート工事の實施に非常に眞面目な努力を拂つて、あの立派なコンクリート工事が出来上つたのである。

私は昨年の四月頃から三種類の新雑誌發行の準備の爲めに非常に多忙となり、現場工事を観察訪問する餘暇が殆んどない状態で坂本氏にも遂に一度も會はなかつた。

坂本氏は無名の一青年技師として終つたのであるが、工事技術に對しては力強い日本の存在であつた。私はお茶の水、兩國間の高架線のコンクリートが帝都の中央に高く聳えてゐる壁面を見る度に、此所に彼の最も貴い努力を捧げた青年技師坂本雅雄氏の名を浮び出さざるを得ないのである。

坂本雅雄氏は現内務省大阪土木出張所長たる坂本助太郎博士の長男で、又我國鐵道技術界の先輩で前土木學會長であつた那波光雄博士の女婿であつた。

坂本博士の悲嘆は申すまでもないが、那波博士もまた愁傷の極にあるとの事で、御悔み申上る言葉もない。

因に坂本雅雄氏は大正十四年の東大土木工學出身で、初め復興局に入り、隅田川の橋梁工事にスタートして、後に鐵道省に轉じた。

不幸の原因は脇チフス快復後の運動過度の爲めであつたと言はれる。

(岡崎生)